

# 男女関係の進展による交流内容の変化\*<sup>1</sup>

川名好裕\*<sup>2</sup>

## The Changes of Interaction Patterns between Males and Females in Love Relationships

KAWANA Yoshihiro

### Abstract

Internet survey was conducted to study the changes of interaction patterns between men and women in love relationships. Survey participants are 968 males and 967 females of all over Japan. Their ages are between 20~49. Samples were divided into 6 different love relationship phases: friend, unrequited, platonic, love-sexual, affianced and married. The degrees of contents of love relation interactions; communication, co-activities, body contacts were investigated. These interaction patterns were compared between males and females, between age groups, 20's, 30's and 40's.

Males are found to be more active in communication, co-activities in the early stages of love relation. Females are found to be more active in the later stages of love relation, especially after engagement. Body-touches by males are more frequent than females all the stages. Younger couples are more active in communication, co-activities and body-touches.

Disagreement of opinions between males and females are increased with the development of close relationships. Disagreement reaches at top in the married couples. Males' flirtations are more frequent than females at all the stages. Females' flirtation tendency is very low after the marriage. Male jealousy tendency is more frequent than females. Male jealousy reaches at top after engagement. These different interaction patterns between males and females were discussed in terms of evolutionary psychological perspectives.

[Keywords] Interaction patterns in love relationships, Communication, Co-activities

### 問題と目的

#### 先行研究

日本における恋愛の進展段階の研究については、松井（1993）などによってなされており、次のような「恋愛段階の5段階説」が提唱されている。友人や勉強の話をしたり、ちょっとした相談事をし、悩みを打ち明けたり、プレゼントをする第1段階、初めてのデートを経て、用もないのに電話やメールをする第2段階、キスをし、抱き合ったりするようになり、友人、に紹介する第3段階、「恋人」として友人に紹介する第4段階、結婚の話をし、性的な関係ができ、婚約をするような第5段階である。しかし、時代の進展に伴い、恋愛段階も以前より、急激に前倒しになり、簡略化していることも指摘されている。（松井，2000）

一方、Sternberg（1986）は、恋愛関係における愛情の特性を、親密性、情熱性、コミットメントとから構成されているという「愛情の三角理論」（TLS: triangular theory of love）を提唱した。親密性とは、人と人とを親密な関係で結びつける基本的な感情要素であり、情熱性とは、異性関係独特の性的欲求と恋愛感情に基礎を置くもの、コミットメント

---

\* 1 この研究は、2011年～2013年度立正大学心理学研究所の共同研究助成のもとで企画されたものの一部である。立正大学心理学研究所の助成に感謝の意を表したい。

\* 2 立正大学心理学部教授

は、責任や約束というふうに社会的拘束を伴い、関係の進展を促進し、関係の逆もどりを阻止する力である。これらを測定する日本語版 TLS も作成されている。(金政・大坊、2003)

これらの恋愛の進展段階に関する先行研究と男女の愛情の分類特性を参考に川名・齊藤(2009)で「恋愛の進展段階」、および川名・齊藤(2010)で「恋愛の進展段階(2)」の研究を行った。川名らはこの2つの研究を通して、恋愛の進展段階について次の4段階を設定した。

- 1段階：知り合い、友人、親友などの「友達段階」
- 2段階：恋人になる以前の「片思い段階」
- 3段階：相手との身体的関係がない精神的な「プラトニック恋人段階」
- 4段階：キスや性的関係が出来た後の「性的関係のある恋人段階」

また、男女の恋愛の進展に影響を及ぼす重要要因である言語や行動の交流内容に関しては、松井の研究を参考に、「コミュニケーション」、「共行動」、「身体接触」、「いさかい」という交流内容の4つの側面を男女関係の交流内容として設定した。また、男女を結びつける愛情については、Sternberg(1986)の「愛情の三角理論」で展開された3つの因子を参考に、男女を結びつける愛情の三角理論の「親密性」、「情熱性」、「コミットメント」に加えて「性欲性」という4つの男女を結びつける要因を設定した。これらの交流内容の4因子と男女を結びつける愛情要因の4つ、計8つの側面に関して、男女関係の進展段階を比較したのである。

その結果、コミュニケーションに関しては、男性は片思い段階での対面コミュニケーションが最も盛んになり(口説き)、女性は恋人関係になった後でメールや電話などの遠隔コミュニケーションが男性よりも盛んであった。共行動では、恋人関係の発展に伴い増加し、恋人後半期での共行動は急激に増加することがわかった。身体接触においては、恋人関係になってから急激に増加がみられ、女性の方が男性よりも身体接触到積極的にあり、男性も相手と性的関係が出来た後から急激に増加することが判明した。さらに情熱性とコミットメントでは、女性においては片思いを含め恋愛関係になってから一挙に高まり、それが維持され、男性は片思い段階と性的関係が出来た後で高まることが明らかにされた。

## 本研究の目的

本研究は、先行研究の知見や問題点をより大規模な研究サンプルを用いて、男女比較、年代比較などを企画して、男女の異性関係の問題点を調査することである。

そのため、男女の異性関係の進展を次のような重要側面から比較検討する。

### 男女関係の進展段階：

- ①「友人段階」②「片思い段階」③「プラトニック段階」④「性的恋人段階」⑤「婚約段階」⑥「結婚段階」

### 男女関係の交流内容：

- ポジティブ交流内容：①コミュニケーション ②共行動 ③身体接触  
ネガティブ交流内容：④意見不一致 ⑤浮気行動 ⑥嫉妬行動

### 男女を結びつける心理的変数：

- ①情熱性 ②性欲性 ③親密性 ④コミットメント

### 調査対象者

日本全国の20代～40代の男女のインターネット大サンプルを使用して調査。

なお、データ分析、問題側面が多岐にわたるので、本研究報告では、男女関係の交流内容の側面について報告する。

## 方 法

### 被調査者と調査時期

インターネット調査会社の登録者サンプルから、日本全国の20～49歳の男女にオンライン・アンケート調査を依頼した。対象調査実施期間は2011年7月であった。有効データ数は、合計1935人(女性967人、男性968人)で、そのデータ構成は、20代～40代(20歳～49歳)の男女を知合い・友人、片思いの相手、プラトニックな恋人、性的関係のある恋人、婚約者、配偶者(結婚相手)のそれぞれのカテゴリーに属する被調査者について、おおよそバランスよいデータ数を収

集してもらった。

### 調査内容

インターネット調査で使用されたアンケート項目を Table 1 に示す。

質問は全部で、77問で、本人の恋人など最も親しい異性を思いうかべてその相手について諸質問に回答してもらった。

質問群の構成は以下のとおりである。

- ① 比較項目の質問（問1～問6）  
相手の年齢、相手との関係、付き合い（知り合い）期間、知り合ったきっかけ、現在までに付き合い合った異性の数などである。
- ② 恋愛タイプについての質問（問7～問31）
- ③ コミュニケーションについての質問（問32～問36）
- ④ 共行動についての質問（問37～41）
- ⑤ 身体接触についての質問（問42～問46）
- ⑥ 情熱性についての質問（問47～問51）
- ⑦ 親密性についての質問（問52～問56）
- ⑧ 性欲性についての質問（問57～問61）
- ⑨ コミットメントについての質問（問62～問66）
- ⑩ いさかいについての質問（問67～問69）
- ⑪ 嫉妬についての質問（問70～問73）
- ⑫ 浮気についての質問（問74～問77）

なお、問7～問77については、全く当てはまらない（1点）から非常に当てはまる（7点）のリッカート尺度である。

### 結果と考察

#### ポジティブ交流要因

男女関係において二人の関係を結びつけることに貢献するであろう交流内容としては、コミュニケーション、共行動、身体接触が考えられる。それらに関する調査項目を主成分分析して、その第一主成分をそれぞれ、コミュニケーション主成分、共行動主成分、身体接触主成分とすることとした。

まず、調査項目のうち、相手とのコミュニケーションに関する調査項目は、以下の5項目である。

問32 よく、メールで相手と連絡を取り合っている

問33 些細なことで、相手にメールをしたりする

問34 電話でよく、話をする

問35 寂しいときや、ひまなとき相手に電話したりする

問36 会ったときに相手といろいろなことについて話をするのが楽しみだ

コミュニケーションに関するこの5項目（問32～問36）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率62.61%を占める第一主成分を「コミュニケーション主成分」とした。

調査項目のうち、相手との共行動に関する調査項目は、以下の5項目である。

問37 相手とデートをよくする

問38 一緒に買い物に行く

問39 相手の住まいをよく訪問する

問40 一緒に旅行に行ったりする

問41 一緒に行楽やイベントに行ったりする

共行動に関するこの5項目（問37～問41）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率78.37%を占める第一主成分を「共行動主成分」とした。

Table 1. 本研究で用いられた調査項目

あなたの地位：学生 会社員 フリーター 無職 年齢： 歳 性別：男 女

これから、あなたの現在の恋人、もしくは、最も親しい異性（親兄弟を除く）について、うかがいます。  
その特定の人を心に思い描いて、以下の質問に答えて下さい。

- 問1 あなたは、 1. 独身（未婚） 2. 独身（結婚歴あり） 3. 既婚
- 問2 その人の年齢は何歳ですか。 歳
- 問3 その人と、あなたはこういった関係ですか。 最も該当するものに○をつけて下さい。  
1. 知り合い・友人  
2. 片思いの相手  
3. 恋人（プラトニック（精神的）な関係）  
4. 恋人（相手と性的関係がある）  
5. 婚約者  
6. 配偶者（結婚相手） 結婚年数：（ 年 ヶ月）
- 問4 その人とは何ヶ月、知り合っていますか（いましたか）？ （ ヶ月）（年は月に換算して下さい）
- 問5 その人と、どのようにして知り合いましたか。最も該当するものに○をつけて下さい。  
1. 学校のサークル 2. 友達の紹介 3. 同じ職場・バイト先 4. 幼なじみ  
5. 友達の元彼（女） 6. 合コン 7. 同じ学校 8. その他（ ）
- 問6 あなたは今まで何人の異性と付き合ってきましたか。 （約 人）

		全 は く ま ら な い	当 て は な い ま	や や ま ら な い	ど ち ら と も 言 え な い	や や 当 て は ま る	当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
問7	その人とよく一緒に遊びの計画を立てる	1	2	3	4	5	6	7
問8	恋人を選ぶときは、その人に経済力があるかどうかを考えてみる	1	2	3	4	5	6	7
問9	その人と私はお互いによく似ていて、息がぴったり合う	1	2	3	4	5	6	7
問10	その人と一緒に過ごしていると時間が夢のように過ぎていく	1	2	3	4	5	6	7
問11	その人とよく、一緒に行楽などに出かける	1	2	3	4	5	6	7
問12	恋人を選ぶときは、その人に将来性があるか考えてみる	1	2	3	4	5	6	7
問13	その人のためならどんな困難でも乗り越えられる	1	2	3	4	5	6	7
問14	その人とは、よく一緒に外で食事をする	1	2	3	4	5	6	7
問15	恋人を選ぶときは、その人の学歴や家柄が自分と釣り合っているかを考える	1	2	3	4	5	6	7
問16	その人は、みんなに好かれている	1	2	3	4	5	6	7
問17	その人と一緒にいる時は、いつも体を触れ合っている	1	2	3	4	5	6	7
問18	恋人を選ぶときは、その人の職業、社会的地位を考慮する	1	2	3	4	5	6	7
問19	その人が自分を嫌ったり、避けたりすると、意地悪をしたくなる	1	2	3	4	5	6	7
問20	その人が私以外の異性と楽しそうに話していると気になって仕方ない	1	2	3	4	5	6	7
問21	その人との友情は大切にしたいと思う	1	2	3	4	5	6	7
問22	その人の他の異性との関係を疑って、よく激しく言い争ったりする	1	2	3	4	5	6	7
問23	その人は、私だけのものであってほしい	1	2	3	4	5	6	7
問24	その人とは、性的関係がある	1	2	3	4	5	6	7
問25	恋人を選ぶときは、その人と将来、よい家庭が築けるかどうかを考えてみる	1	2	3	4	5	6	7
問26	私とその人とは親友のようなものである	1	2	3	4	5	6	7
問27	その人の携帯電話のメールをこっそり、チェックすることがある	1	2	3	4	5	6	7

問28	私は、その人に近づく同性（恋敵）には徹底的に意地悪をする	1	2	3	4	5	6	7
問29	その人と、うまくいってないときは、生活全般に元気が出ない	1	2	3	4	5	6	7
問30	私が最も満足している恋愛関係は友情的な基礎の上にあると思う	1	2	3	4	5	6	7
問31	その人が私を捨てて、他の異性にのりかえたら絶対に仕返しをしてやる	1	2	3	4	5	6	7
問32	よく、メールで相手と連絡を取り合っている	1	2	3	4	5	6	7
問33	些細なことで、相手にメールをしたりする	1	2	3	4	5	6	7
問34	電話でよく、話をする	1	2	3	4	5	6	7
問35	寂しいときや、ひまなとき相手に電話したりする	1	2	3	4	5	6	7
問36	会ったときに相手といろいろなことについて話をするのが楽しみだ	1	2	3	4	5	6	7
問37	相手とデートをよくする	1	2	3	4	5	6	7
問38	一緒に買い物に行く	1	2	3	4	5	6	7
問39	相手の住まいをよく訪問する	1	2	3	4	5	6	7
問40	一緒に旅行に行ったりする	1	2	3	4	5	6	7
問41	一緒に行楽やイベントに行ったりする	1	2	3	4	5	6	7
問42	よく相手と手をつないだり、腕を組んだりする	1	2	3	4	5	6	7
問43	よく相手の肩や腰に手をまわす	1	2	3	4	5	6	7
問44	相手の身体にさわりたい	1	2	3	4	5	6	7
問45	相手を抱きしめたりする	1	2	3	4	5	6	7
問46	相手とよくキスをしたりする	1	2	3	4	5	6	7
問47	相手は自分にとって非常に魅力的な人だ	1	2	3	4	5	6	7
問48	相手について空想にふけることがある	1	2	3	4	5	6	7
問49	相手を見るだけでドキドキしてしまう	1	2	3	4	5	6	7
問50	ロマンチックな映画を観たり本を読んだりすると、つい相手のことを考えてしまう	1	2	3	4	5	6	7
問51	ふと気が付くと相手のことを考えていることがよくある	1	2	3	4	5	6	7
問52	相手との関係は居心地の良いものである	1	2	3	4	5	6	7
問53	自分は必要な時には相手を頼ることができる	1	2	3	4	5	6	7
問54	相手とはうまくコミュニケーションがとれている	1	2	3	4	5	6	7
問55	自分と相手の関係は温かいものである	1	2	3	4	5	6	7
問56	相手は必要な時には自分を頼ってくる	1	2	3	4	5	6	7
問57	相手といると性的興奮をする	1	2	3	4	5	6	7
問58	性的接触を自分から求めることがある	1	2	3	4	5	6	7
問59	相手との性的接触がよくある	1	2	3	4	5	6	7
問60	相手との性的接触をめんどうに感じる	1	2	3	4	5	6	7
問61	相手から性的接触を求められるとうんざりする	1	2	3	4	5	6	7
問62	自分にとって相手との関係よりも大切なものなど他にない	1	2	3	4	5	6	7
問63	自分と相手との関わりは揺ぎないものである	1	2	3	4	5	6	7
問64	相手なしの生活など考えられない	1	2	3	4	5	6	7
問65	相手との関わりは強いもので、何のものにも邪魔されたくない	1	2	3	4	5	6	7
問66	相手との関係を終わらせることなど自分には考えられない	1	2	3	4	5	6	7
問67	相手と意見が合わないことがよくある	1	2	3	4	5	6	7
問68	相手と考え方の違いで喧嘩をすることがある	1	2	3	4	5	6	7
問69	相手と結婚したいけど、相手にその気はない	1	2	3	4	5	6	7
問70	相手が他の異性と付き合っていないかどうか心配だ	1	2	3	4	5	6	7
問71	相手の携帯電話のメールをこっそりチェックすることがある	1	2	3	4	5	6	7
問72	相手に近づく同性ライバルには、徹底的に意地悪をする	1	2	3	4	5	6	7
問73	相手はこちらの異性関係についてひどく嫉妬する	1	2	3	4	5	6	7
問74	複数の魅力的な異性に興味がいく	1	2	3	4	5	6	7
問75	現在の相手に不満足だから、他の異性とも付き合ってみたい	1	2	3	4	5	6	7
問76	チャンスがあれば、他の異性にもアプローチする	1	2	3	4	5	6	7
問77	相手は、自分以外の異性と付き合っているようだ	1	2	3	4	5	6	7

調査項目のうち、相手との身体接触に関する調査項目は、以下の5項目である。

- 問42 よく相手と手をつないだり、腕を組んだりする
- 問43 よく相手の肩や腰に手をまわす
- 問44 相手の身体にさわりたい
- 問45 相手を抱きしめたりする
- 問46 相手とよくキスをしたりする

身体接触に関するこの5項目（問42～問46）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率81.19%を占める第一主成分を「身体接触主成分」とした。

### ネガティブ交流要因

次に男女関係において二人の関係に齟齬をもたらし関係を悪化させることに影響するネガティブ交流内容としては、意見不一致、嫉妬、浮気などが考えられる。それらに関する調査項目を主成分分析して、その第一主成分をそれぞれ、意見不一致主成分、嫉妬主成分、浮気主成分とすることとした。

調査項目のうち、相手との意見不一致に関する調査項目は、以下の2項目である。

- 問67 相手と意見が合わないことがよくある
- 問68 相手と考え方の違いで喧嘩をすることがある

意見不一致に関するこの2項目（問67～問68）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率84.53%を占める第一主成分を「意見不一致主成分」とした。

調査項目のうち、相手との嫉妬に関する調査項目は、以下の3項目である。

- 問70 相手が他の異性と付き合っていないかどうか心配だ
- 問71 相手の携帯電話のメールをこっそりチェックすることがある
- 問72 相手に近づく同性ライバルには、徹底的に意地悪をする

嫉妬に関するこの3項目（問70～問71）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率61.71%を占める第一主成分を「嫉妬主成分」とした。

調査項目のうち、相手との浮気に関する調査項目は、以下の4項目である。

- 問74 複数の魅力的な異性に関心がいく
- 問75 現在の相手に不満足だから、他の異性とも付き合ってみたい
- 問76 チャンスがあれば、他の異性にもアプローチする
- 問77 相手は、自分以外の異性と付き合っているようだ

浮気に関するこの項目（問74～問77）を主成分分析して、固有値1以上で、寄与率64.48%を占める第一主成分を「浮気主成分」とした。

### 交流内容の男女の進展段階による変化

以上のように、男女の関係における交流内容を以上のように、ポジティブ要因（コミュニケーション、共行動、身体接触）、ネガティブ要因（意見不一致、浮気、嫉妬）分類した。これらの男女関係の6つの交流内容の変化を性別（男女）、本人の年代（20代、30代、40代）、相手との関係進展段階6つ（友人、片思い、プラトニックな恋人関係、性的関係のある恋人関係、婚約段階、結婚後の配偶者段階）について比較検討するのが本研究報告の目的である。

そこで、性別、年代、関係を比較変数とし、6つの交流内容を目的変数とする $2 \times 3 \times 6$ の三元配置多変量分散分析を実施した。

Table 2. に多変量分散分析の分散分析表を示す。Table 3. に多重比較検定の結果を示す。

Table 2. 分散分析表

分散分析表	比較変数	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	** : 1%有意 * : 5%有意		判定
						F 値	P 値	
本人性別		コミュニケーション成分	2.9800	1	2.9800	1.1909	0.2753	
本人性別		共行動主成分	28.7493	1	28.7493	12.1010	0.0005	**
本人性別		身体接触主成分	38.1876	1	38.1876	15.2060	0.0001	**
本人性別		意見不一致	0.4090	1	0.4090	0.2630	0.6081	
本人性別		嫉妬主成分	44.8655	1	44.8655	19.3101	0.0000	**
本人性別		浮気主成分	97.4153	1	97.4153	39.2881	0.0000	**
本人年代		コミュニケーション成分	50.3345	2	25.1672	10.0577	0.0000	**
本人年代		共行動主成分	57.2340	2	28.6170	12.0453	0.0000	**
本人年代		身体接触主成分	73.4703	2	36.7351	14.6276	0.0000	**
本人年代		意見不一致	2.2478	2	1.1239	0.7227	0.4856	
本人年代		嫉妬主成分	31.1159	2	15.5579	6.6961	0.0013	**
本人年代		浮気主成分	4.1466	2	2.0733	0.8362	0.4335	
関係の進展		コミュニケーション成分	889.3857	5	177.8771	71.0859	0.0000	**
関係の進展		共行動主成分	2334.3385	5	466.8677	196.5119	0.0000	**
関係の進展		身体接触主成分	2090.8313	5	418.1663	166.5105	0.0000	**
関係の進展		意見不一致	239.7711	5	47.9542	30.8341	0.0000	**
関係の進展		嫉妬主成分	119.0009	5	23.8002	10.2436	0.0000	**
関係の進展		浮気主成分	78.0928	5	15.6186	6.2990	0.0000	**
本人性別 * 本人年代		コミュニケーション成分	1.3362	2	0.6681	0.2670	0.7657	
本人性別 * 本人年代		共行動主成分	3.2526	2	1.6263	0.6845	0.5045	
本人性別 * 本人年代		身体接触主成分	12.6823	2	6.3412	2.5250	0.0803	傾向
本人性別 * 本人年代		意見不一致	2.4366	2	1.2183	0.7834	0.4570	
本人性別 * 本人年代		嫉妬主成分	11.2478	2	5.6239	2.4205	0.0891	傾向
本人性別 * 本人年代		浮気主成分	8.8642	2	4.4321	1.7875	0.1677	
本人性別 * 関係の進展		コミュニケーション成分	27.0311	5	5.4062	2.1605	0.0559	傾向
本人性別 * 関係の進展		共行動主成分	29.4608	5	5.8922	2.4801	0.0301	*
本人性別 * 関係の進展		身体接触主成分	30.3974	5	6.0795	2.4208	0.0338	*
本人性別 * 関係の進展		意見不一致	4.5068	5	0.9014	0.5796	0.7157	
本人性別 * 関係の進展		嫉妬主成分	21.3225	5	4.2645	1.8354	0.1028	傾向
本人性別 * 関係の進展		浮気主成分	28.0014	5	5.6003	2.2586	0.0463	*
本人年代 * 関係の進展		コミュニケーション成分	39.4157	10	3.9416	1.5752	0.1079	傾向
本人年代 * 関係の進展		共行動主成分	28.1611	10	2.8161	1.1853	0.2958	
本人年代 * 関係の進展		身体接触主成分	54.3435	10	5.4344	2.1639	0.0175	*
本人年代 * 関係の進展		意見不一致	7.1653	10	0.7165	0.4607	0.9156	
本人年代 * 関係の進展		嫉妬主成分	17.7703	10	1.7770	0.7648	0.6631	
本人年代 * 関係の進展		浮気主成分	9.7594	10	0.9759	0.3936	0.9500	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		コミュニケーション成分	33.9695	10	3.3970	1.3575	0.1942	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		共行動主成分	29.7916	10	2.9792	1.2540	0.2515	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		身体接触主成分	21.6941	10	2.1694	0.8638	0.5669	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		意見不一致	11.7193	10	1.1719	0.7535	0.6740	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		嫉妬主成分	15.4626	10	1.5463	0.6655	0.7573	
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展		浮気主成分	21.3667	10	2.1367	0.8617	0.5689	

Table 3. 多重比較検定

\*\* : 1%有意 \* : 5%有意

比較変数	目的変数	手法	水準 1	水準 2	平均 1	平均 2	差	標準誤差	統計量	P値	判定
本人性別	コミュニケーション成分	Scheffe	男性	女性	-0.0276	0.0269	0.0546	0.0720	0.5749	0.4484	
	共行動主成分	Scheffe	男性	女性	0.0846	-0.0850	0.1696	0.0701	5.8495	0.0157	*
	身体接触主成分	Scheffe	男性	女性	0.0946	-0.0948	0.1894	0.0721	6.9036	0.0087	**
	意見不一致	Scheffe	男性	女性	0.0123	-0.0123	0.0246	0.0567	0.1882	0.6645	
	嫉妬主成分	Scheffe	男性	女性	0.1492	-0.1510	0.3002	0.0693	18.7463	0.0000	**
	浮気主成分	Scheffe	男性	女性	0.2415	-0.2461	0.4876	0.0716	46.3444	0.0000	**
本人年代	コミュニケーション成分	Scheffe	20代	30代	0.5132	0.0650	0.4482	0.1074	8.7012	0.0002	**
			20代	40代	0.5132	-0.2204	0.7336	0.0937	30.6164	0.0000	**
			30代	40代	0.0650	-0.2204	0.2854	0.0866	5.4288	0.0045	**
	共行動主成分	Scheffe	20代	30代	0.6522	0.0931	0.5591	0.1047	14.2617	0.0000	**
			20代	40代	0.6522	-0.2845	0.9367	0.0913	52.5759	0.0000	**
			30代	40代	0.0931	-0.2845	0.3775	0.0844	10.0094	0.0000	**
	身体接触主成分	Scheffe	20代	30代	0.5947	0.1669	0.4277	0.1076	7.8957	0.0004	**
			20代	40代	0.5947	-0.2971	0.8918	0.0939	45.0874	0.0000	**
			30代	40代	0.1669	-0.2971	0.4641	0.0868	14.3071	0.0000	**
	意見不一致	Scheffe	20代	30代	0.0485	0.0431	0.0054	0.0847	0.0021	0.9979	
			20代	40代	0.0485	-0.0379	0.0864	0.0739	0.6828	0.5053	
			30代	40代	0.0431	-0.0379	0.0809	0.0683	0.7025	0.4955	
	嫉妬主成分	Scheffe	20代	30代	0.3300	0.0757	0.2543	0.1035	3.0166	0.0492	*
			20代	40代	0.3300	-0.1585	0.4885	0.0903	14.6219	0.0000	**
			30代	40代	0.0757	-0.1585	0.2342	0.0834	3.9381	0.0196	*
	浮気主成分	Scheffe	20代	30代	-0.1777	-0.0374	0.1402	0.1070	0.8596	0.4235	
			20代	40代	-0.1777	0.0790	0.2567	0.0933	3.7825	0.0229	*
			30代	40代	-0.0374	0.0790	0.1164	0.0862	0.9120	0.4019	
関係の進展	コミュニケーション成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-0.7677	-0.6952	0.0725	0.1206	0.0722	0.9963	
			A (友人)	C (プラトニック)	-0.7677	0.4257	1.1934	0.1345	15.7368	0.0000	**
			A (友人)	D (性的恋人)	-0.7677	0.8101	1.5778	0.0942	56.1393	0.0000	**
			A (友人)	E (婚約者)	-0.7677	1.1486	1.9162	0.1315	42.4925	0.0000	**
			A (友人)	F (配偶者)	-0.7677	0.4577	1.2254	0.1369	16.0311	0.0000	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	-0.6952	0.4257	1.1210	0.1609	9.7066	0.0000	**
			B (片思い)	D (性的恋人)	-0.6952	0.8101	1.5053	0.1291	27.2063	0.0000	**
			B (片思い)	E (婚約者)	-0.6952	1.1486	1.8438	0.1583	27.1177	0.0000	**
			B (片思い)	F (配偶者)	-0.6952	0.4577	1.1529	0.1629	10.0233	0.0000	**
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.4257	0.8101	0.3844	0.1422	1.4625	0.1990	
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.4257	1.1486	0.7228	0.1692	3.6511	0.0027	**
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.4257	0.4577	0.0320	0.1734	0.0068	1.0000	
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.8101	1.1486	0.3384	0.1392	1.1815	0.3158	
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.8101	0.4577	0.3524	0.1444	1.1921	0.3106	
			E (婚約者)	F (配偶者)	1.1486	0.4577	0.6909	0.1710	3.2633	0.0061	**
関係の進展	共行動主成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-1.1062	-1.2970	0.1908	0.1175	0.5268	0.7562	
			A (友人)	C (プラトニック)	-1.1062	0.1873	1.2936	0.1311	19.4733	0.0000	**
			A (友人)	D (性的恋人)	-1.1062	1.0306	2.1368	0.0918	108.4469	0.0000	**
			A (友人)	E (婚約者)	-1.1062	1.7442	2.8504	0.1281	99.0290	0.0000	**
			A (友人)	F (配偶者)	-1.1062	1.7979	2.9041	0.1334	94.8373	0.0000	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	-1.2970	0.1873	1.4843	0.1568	17.9262	0.0000	**
			B (片思い)	D (性的恋人)	-1.2970	1.0306	2.3276	0.1258	68.5067	0.0000	**
			B (片思い)	E (婚約者)	-1.2970	1.7442	3.0412	0.1543	77.7059	0.0000	**
			B (片思い)	F (配偶者)	-1.2970	1.7979	3.0949	0.1587	76.0735	0.0000	**
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.1873	1.0306	0.8432	0.1385	7.4124	0.0000	**
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.1873	1.7442	1.5569	0.1648	17.8394	0.0000	**
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.1873	1.7979	1.6105	0.1690	18.1701	0.0000	**
			D (性的恋人)	E (婚約者)	1.0306	1.7442	0.7136	0.1357	5.5329	0.0000	**
			D (性的恋人)	F (配偶者)	1.0306	1.7979	0.7673	0.1407	5.9514	0.0000	**
			E (婚約者)	F (配偶者)	1.7442	1.7979	0.0537	0.1667	0.0207	0.9998	
関係の進展	身体接触主成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-1.3128	-0.5989	0.7139	0.1209	6.9800	0.0000	**
			A (友人)	C (プラトニック)	-1.3128	0.1772	1.4900	0.1348	24.4421	0.0000	**
			A (友人)	D (性的恋人)	-1.3128	1.3565	2.6693	0.0943	160.0943	0.0000	**
			A (友人)	E (婚約者)	-1.3128	1.5658	2.8787	0.1317	95.5479	0.0000	**
			A (友人)	F (配偶者)	-1.3128	1.0736	2.3864	0.1371	60.5837	0.0000	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	-0.5989	0.1772	0.7761	0.1612	4.6357	0.0003	**
			B (片思い)	D (性的恋人)	-0.5989	1.3565	1.9553	0.1293	45.7371	0.0000	**
			B (片思い)	E (婚約者)	-0.5989	1.5658	2.1647	0.1586	37.2448	0.0000	**
			B (片思い)	F (配偶者)	-0.5989	1.0736	1.6725	0.1632	21.0174	0.0000	**
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.1772	1.3565	1.1793	0.1424	13.7148	0.0000	**
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.1772	1.5658	1.3887	0.1695	13.4266	0.0000	**
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.1772	1.0736	0.8964	0.1737	5.3254	0.0001	**
			D (性的恋人)	E (婚約者)	1.3565	1.5658	0.2094	0.1395	0.4506	0.8131	
			D (性的恋人)	F (配偶者)	1.3565	1.0736	0.2828	0.1446	0.7650	0.5750	
			E (婚約者)	F (配偶者)	1.5658	1.0736	0.4922	0.1713	1.6505	0.1434	

比較変数	目的変数	手法	水準 1	水準 2	平均 1	平均 2	差	標準誤差	統計量	P値	判定
関係の進展	意見不一致	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-0.3646	-0.3965	0.0319	0.0951	0.0225	0.9998	
			A (友人)	C (プラトニック)	-0.3646	0.1240	0.4886	0.1061	4.2447	0.0008	**
			A (友人)	D (性的恋人)	-0.3646	0.3315	0.6961	0.0742	17.5810	0.0000	**
			A (友人)	E (婚約者)	-0.3646	0.5269	0.8915	0.1036	14.7971	0.0000	**
			A (友人)	F (配偶者)	-0.3646	0.5614	0.9260	0.1079	14.7304	0.0000	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	-0.3965	0.1240	0.5205	0.1269	3.3678	0.0049	**
			B (片思い)	D (性的恋人)	-0.3965	0.3315	0.7280	0.1018	10.2380	0.0000	**
			B (片思い)	E (婚約者)	-0.3965	0.5269	0.9234	0.1248	10.9433	0.0000	**
			B (片思い)	F (配偶者)	-0.3965	0.5614	0.9579	0.1284	11.1336	0.0000	**
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.1240	0.3315	0.2075	0.1121	0.6854	0.6345	
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.1240	0.5269	0.4028	0.1334	1.8246	0.1048	傾向
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.1240	0.5614	0.4374	0.1367	2.0473	0.0693	傾向
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.3315	0.5269	0.1954	0.1098	0.6336	0.6742	
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.3315	0.5614	0.2299	0.1138	0.8164	0.5379	
			E (婚約者)	F (配偶者)	0.5269	0.5614	0.0345	0.1348	0.0131	0.9999	
関係の進展	嫉妬主成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-0.4014	0.1125	0.5139	0.1162	3.9089	0.0016	**
			A (友人)	C (プラトニック)	-0.4014	0.2502	0.6516	0.1296	5.0518	0.0001	**
			A (友人)	D (性的恋人)	-0.4014	0.2612	0.6626	0.0907	10.6622	0.0000	**
			A (友人)	E (婚約者)	-0.4014	0.2817	0.6831	0.1267	5.8155	0.0000	**
			A (友人)	F (配偶者)	-0.4014	0.3546	0.7559	0.1319	6.5705	0.0000	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	0.1125	0.2502	0.1377	0.1550	0.1577	0.9777	
			B (片思い)	D (性的恋人)	0.1125	0.2612	0.1487	0.1244	0.2859	0.9210	
			B (片思い)	E (婚約者)	0.1125	0.2817	0.1692	0.1526	0.2460	0.9419	
			B (片思い)	F (配偶者)	0.1125	0.3546	0.2420	0.1569	0.4758	0.7946	
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.2502	0.2612	0.0110	0.1370	0.0013	1.0000	
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.2502	0.2817	0.0315	0.1630	0.0075	1.0000	
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.2502	0.3546	0.1044	0.1671	0.0780	0.9956	
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.2612	0.2817	0.0205	0.1342	0.0047	1.0000	
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.2612	0.3546	0.0933	0.1391	0.0901	0.9938	
			E (婚約者)	F (配偶者)	0.2817	0.3546	0.0728	0.1648	0.0391	0.9992	
関係の進展	浮気主成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	0.1299	0.1082	0.0217	0.1201	0.0065	1.0000	
			A (友人)	C (プラトニック)	0.1299	0.1450	0.0151	0.1339	0.0025	1.0000	
			A (友人)	D (性的恋人)	0.1299	0.0095	0.1204	0.0937	0.3297	0.8952	
			A (友人)	E (婚約者)	0.1299	-0.4141	0.5440	0.1309	3.4556	0.0041	**
			A (友人)	F (配偶者)	0.1299	-0.4848	0.6147	0.1362	4.0715	0.0011	**
			B (片思い)	C (プラトニック)	0.1082	0.1450	0.0368	0.1602	0.0105	1.0000	
			B (片思い)	D (性的恋人)	0.1082	0.0095	0.0987	0.1285	0.1179	0.9885	
			B (片思い)	E (婚約者)	0.1082	-0.4141	0.5223	0.1576	2.1956	0.0523	
			B (片思い)	F (配偶者)	0.1082	-0.4848	0.5930	0.1621	2.6761	0.0204	*
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.1450	0.0095	0.1354	0.1415	0.1832	0.9690	
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.1450	-0.4141	0.5590	0.1684	2.2038	0.0515	
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.1450	-0.4848	0.6298	0.1726	2.6621	0.0209	*
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.0095	-0.4141	0.4236	0.1386	1.8679	0.0968	
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.0095	-0.4848	0.4944	0.1437	2.3670	0.0375	*
			E (婚約者)	F (配偶者)	-0.4141	-0.4848	0.0708	0.1703	0.0345	0.9994	

(1) コミュニケーションの変遷

目的変数の「コミュニケーション成分」の分散分析の結果、有意および傾向のあったものだけを示すと、以下のようになる。

分散分析表		**:1%有意 *:5%有意						
因子	目的変数	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定	
本人年代	コミュニケーション成分	50.3345	2	25.1672	10.0577	0.0000	**	主効果
関係の進展	コミュニケーション成分	889.3857	5	177.8771	71.0859	0.0000	**	主効果
本人年代 * 関係の進展	コミュニケーション成分	39.4157	10	3.9416	1.5752	0.1079	傾向近	交互作用効果
性別 * 関係の進展	コミュニケーション成分	27.0311	5	5.4062	2.1605	0.0559	傾向有	交互作用効果

年代の主効果が有意で、コミュニケーションは、20代で最も多く、30代、40代となると減っていく。また、関係の進展の主効果が有意で、男女関係の進展に伴って、コミュニケーションも増える。本人の年代×関係の進展、および、性別×関係の進展の交互作用効果は、有意水準に近く傾向がある。Fig. 1 にコミュニケーションの年代比較のグラフを Fig. 2 にコミュニケーションの男女比較のグラフと示す。

年代比較では、20代の性的恋人関係および婚約者関係において最もコミュニケーションが高く頂点を迎える。しかし、

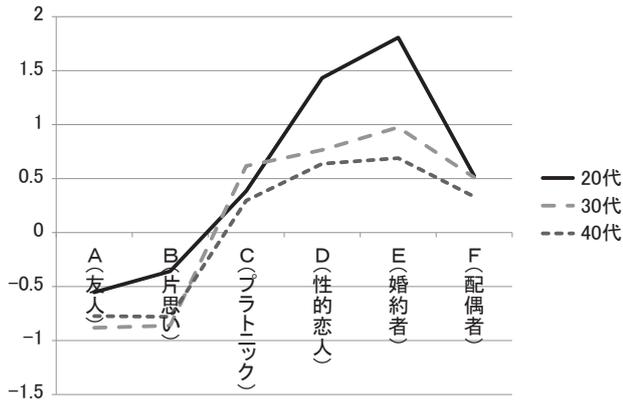


Fig. 1 コミュニケーション (年代比較)

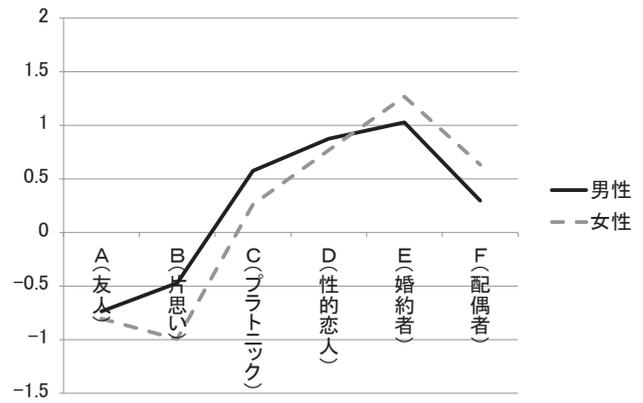


Fig. 2 コミュニケーション (男女比較)

結婚して配偶者となると、コミュニケーションは減っていくという結果である。

男女比較を見ると、男性は性的恋人段階まででコミュニケーションが女性より多く、女性は婚約時点で逆転して、配偶者となると男性よりコミュニケーションが多くなるようである。男性の目的が性的結合、女性の目的が結婚であることを暗示する進化心理学的解釈ができるであろう。

## (2) 共行動の変遷

目的変数の「共行動成分」の分散分析の結果、有意であったものだけを示すと、以下のようになる。

因子	目的変数	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定	
性別	共行動主成分	28.7493	1	28.7493	12.1010	0.0005	**	単純主効果
本人年代	共行動主成分	57.2340	2	28.6170	12.0453	0.0000	**	主効果
関係の進展	共行動主成分	2334.3385	5	466.8677	196.5119	0.0000	**	単純主効果
性別 * 関係の進展	共行動主成分	29.4608	5	5.8922	2.4801	0.0301	*	交互作用効果

性別×関係の進展の交互作用効果が有意であり、性別および関係の進展の単純主効果が有意である。また、本人の年代の主効果が有意である。

Fig. 3 に共行動の男女比較、Fig. 4 に共行動の世代比較のグラフを示す。

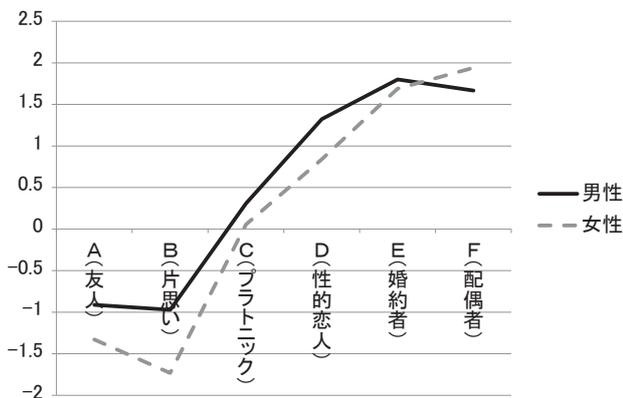


Fig. 3 共行動 (男女比較)

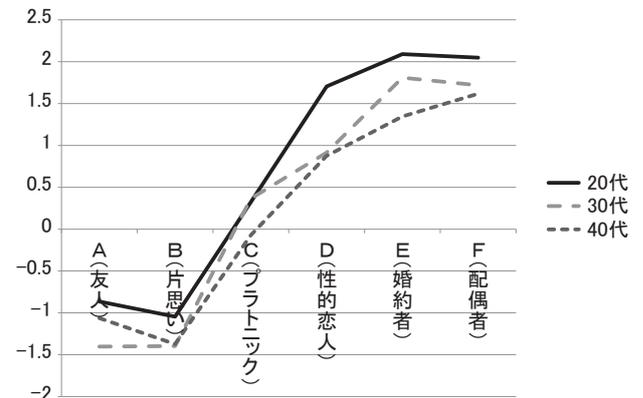


Fig. 4 共行動 (年代比較)

共行動の男女比較をすると、友人段階から婚約者段階に至るまで、男性の方が女性より共行動に積極的である。しかし、最後の結婚した配偶者関係では、女性の方の共行動が多くなっている。

共行動の年代比較をすると、20代で最も共行動が多く、30代、40代というふうに減少してゆく。共行動は結婚した配

偶者関係で維持されてゆく。コミュニケーションが減少するのは対照的である。

(3) 身体接触の変遷

目的変数の「身体接触成分」の分散分析の結果、有意および傾向のあったものだけを示すと、以下のようになる。

分散分析表		**:1%有意 *:5%有意					
比較変数	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
性別	身体接触主成分	38.1876	1	38.1876	15.2060	0.0001	** 単純主効果
本人年代	身体接触主成分	73.4703	2	36.7351	14.6276	0.0000	** 単純主効果
関係の進展	身体接触主成分	2090.8313	5	418.1663	166.5105	0.0000	** 単純主効果
性別 * 本人年代	身体接触主成分	12.6823	2	6.3412	2.5250	0.0803	傾向 交互作用効果
性別 * 関係の進展	身体接触主成分	30.3974	5	6.0795	2.4208	0.0338	* 交互作用効果
本人年代 * 関係の進展	身体接触主成分	54.3435	10	5.4344	2.1639	0.0175	* 交互作用効果

「性別×関係進展」および「本人年代×関係進展」の交互作用が有意で、また、「性別×本人年代」の交互作用も有意に近い傾向がある。性別、本人年代、関係進展とも単純主効果が有意である。

Fig.5 に身体接触の男女比較、Fig.6 に身体接触の年代比較のグラフを示す。

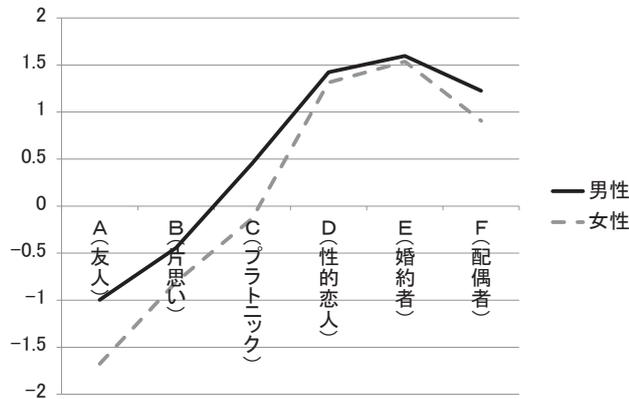


Fig.5 身体接触 (男女比較)

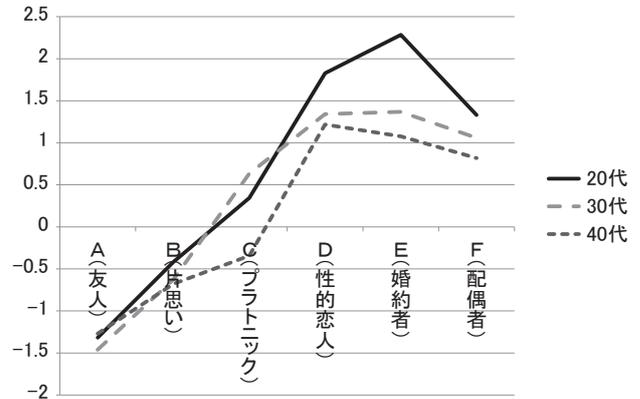


Fig.6 身体接触 (年代比較)

身体接触について男女を比較すると、関係の進展とともに身体接触は増えてゆき、婚約者関係で頂点を迎える。配偶者関係で下がってゆく。男女が同じ程度に身体接触を望むのは、性的恋人、婚約者関係のあたりであり、他の関係では、男性の方が女性より身体接触欲求が高いようである。一般的に女性より男性の方が、性的欲求が強いので、それに伴い身体接触欲求が強いのであろうと推察される。

身体接触の年代比較をすると、20代の性的恋人関係および婚約者段階で最も身体接触が多いことが見て取れる。30代から40代となると少し、身体接触も減っていくようである。自分の年齢や相手の年齢の加齢による体力や美的、性的魅力の減退が原因であろうと考えられる。

以上、コミュニケーション、共行動、身体接触などは、男女の関係を緊密にするポジティブ要因の交流内容であるが、次に男女関係を引き離すネガティブ要因である、意見不一致、浮気、嫉妬などのネガティブ交流要因を性別、年代、関係進展段階について比較してみよう。

(4) 意見不一致の変遷

目的変数の「意見不一致成分」に関連した分散分析表を示すと、以下のようになる。

分散分析表					**:1%有意 * :5%有意		
比較変数	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
関係の進展	意見不一致	239.7711	5	47.9542	30.8341	0.0000	** 主効果
性別	意見不一致	0.4090	1	0.4090	0.2630	0.6081	
性別 * 関係の進展	意見不一致	4.5068	5	0.9014	0.5796	0.7157	

意見不一致については、「関係の進展」だけが主効果があり、性別および「性別×関係の進展」の交互作用効果はなかった。

Fig.7に意見不一致の男女比較のグラフを示す。男女に有意差は、なく、男女関係の進展とともに、意見不一致が増加しているのが見て取れる。「仲がいいほど、喧嘩する」という男女関係の俗言のとおり、親密な関係になるほど、意見不一致が増えている。結婚した配偶者関係で頂点に達する。「恋人喧嘩」という言葉はあまり聞かないが、「夫婦喧嘩」という成句があるゆえんであろう。

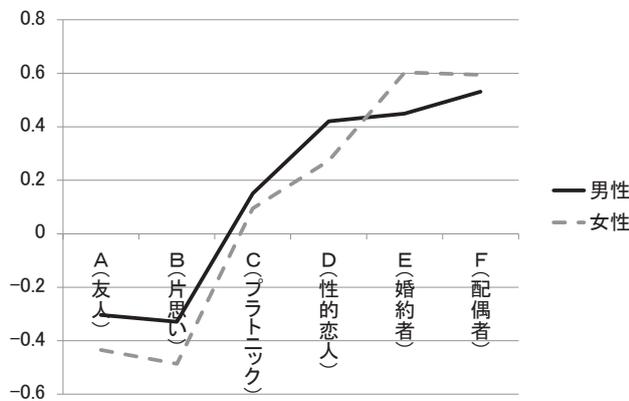


Fig.7 意見不一致 (男女比較)

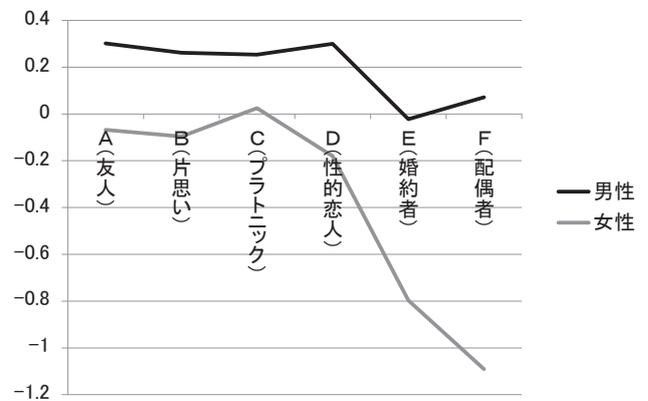


Fig.8 浮気の変遷 (男女比較)

(5) 浮気の変遷

目的変数の「浮気成分」に関連した分散分析表を示すと、以下のようになる。

分散分析表					**:1%有意 * :5%有意		
因子	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
性別	浮気主成分	97.4153	1	97.4153	39.2881	0.0000	** 単純主効果
関係の進展	浮気主成分	78.0928	5	15.6186	6.2990	0.0000	** 単純主効果
性別 * 関係の進展	浮気主成分	28.0014	5	5.6003	2.2586	0.0463	* 交互作用効果

「性別×関係の進展」の交互作用効果が有意である。また、性別、関係の進展の単純主効果も有意である。

Fig.8に浮気の変遷 (男女比較) のグラフを示す。どの進展段階においても、男性の方が女性より浮気傾向は高いのが見て取れる。男女とも、婚約、配偶者段階で浮気傾向が下がるが、女性の方の浮気傾向が急激に下がる。男性は配偶者段階で浮気傾向が上向きの方に向くようである。結婚後の男女では、妻は浮気しないのに夫が浮気する傾向が有意に高いのである。

(6) 嫉妬の変遷

目的変数の「嫉妬成分」に関連した分散分析表を示すと、以下のようになる。

分散分析表					**:1%有意 * :5%有意		
因子	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
性別	嫉妬主成分	44.8655	1	44.8655	19.3101	0.0000	** 主効果
本人年代	嫉妬主成分	31.1159	2	15.5579	6.6961	0.0013	** 主効果
関係の進展	嫉妬主成分	119.0009	5	23.8002	10.2436	0.0000	** 主効果
性別 * 本人年代	嫉妬主成分	11.2478	2	5.6239	2.4205	0.0891	傾向 交互作用効果
性別 * 関係の進展	嫉妬主成分	21.3225	5	4.2645	1.8354	0.1028	傾向 交互作用効果

性別、本人年代、関係の進展の主効果が有意である。「性別×本人年代」と「性別×関係の進展」の交互作用効果が有意に近い傾向がある。

Fig.9に嫉妬の男女比較、Fig.10に嫉妬の年代比較のグラフを示す。

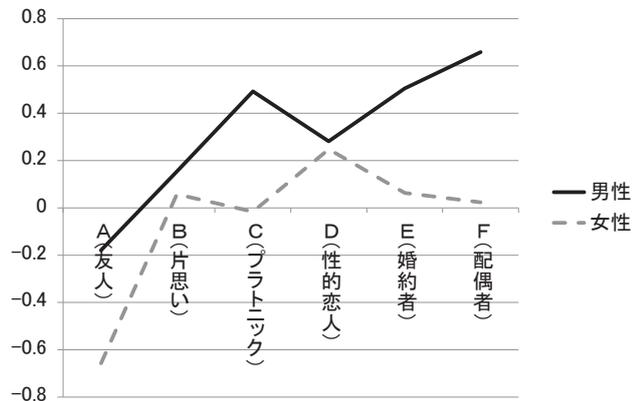


Fig.9 嫉妬 (男女比較)

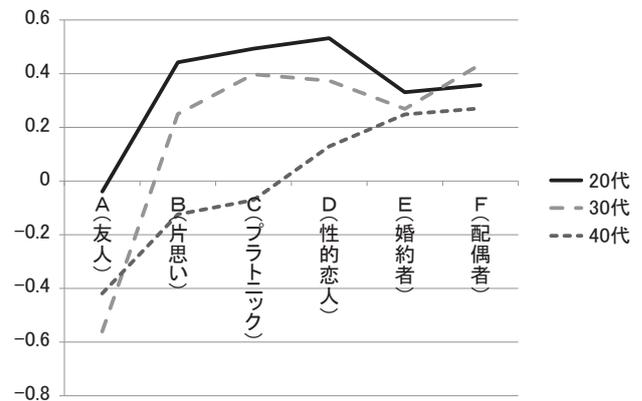


Fig.10 嫉妬 (年代比較)

嫉妬の男女比較を見ると、嫉妬は女性の特徴と日常的には考えられているが、男性の方が女性より嫉妬傾向は高いという結果であった。唯一、男女の嫉妬の度合いが似ているのは、性的恋人段階である。他の進展段階においては、男性の方が女性より嫉妬が強いのである。婚約、配偶者段階になると、急激に男性の側の嫉妬が増大するのに対して、女性の側の嫉妬は、減少してゆくのがわかる。

次に嫉妬の年代比較をすると、若い20代で最も嫉妬が高く、30代から40代へと減少してゆくようである。しかし、婚約者、配偶者段階においては、年代の違いは少なく、嫉妬は上昇、維持される傾向である。20代～30代では、片思い、プラトニックな恋人段階から嫉妬は強いものに対して、40代では、片思い、恋人段階では、それほど高くないが、結婚段階で急激に高くなるようである。

## 総合的考察

本報告では、男女の親密な関係のつきあい、交流内容をポジティブ交流要因（コミュニケーション、共行動、身体接触）とネガティブ交流要因（意見不一致、浮気、嫉妬）について関係の進展にともなう変化について分析した。その結果、分かったことを列記すると以下ようになる。

1. コミュニケーションは、友人段階からより親密な関係の進展によって増加し、婚約段階で頂点に達し、結婚段階で下がる。
2. 結婚前は男性の、結婚後は女性のコミュニケーションが盛んである。
3. 20代の性的恋人、婚約段階で最もコミュニケーションが盛んである。
4. 共行動は、コミュニケーションの進展と同じく、男女の親密な関係の進展にともない多くなる。
5. 結婚後の共行動は、コミュニケーションの現象とは違い、維持される。
6. コミュニケーションと同様、共行動は若い年代の方が盛んである。
7. 身体接触は、ほとんどの男女関係の段階で、男性の方が女性より積極的である。

8. 最も男女の身体接触欲求が一致するのは、性的恋人、婚約段階である。
9. 身体接触も、20代の性的恋人、婚約段階で最も高い。結婚後は年代の格差はそれほどでもない。
10. 意見不一致は、親密な関係の進展とともに増加してゆく。
11. 浮気傾向に関しては、どの段階でも男性の方が女性よりその傾向が高い。
12. 男女とも結婚関係から浮気傾向が下がる。
13. 結婚後、女性の浮気は急激に下がる。
14. 結婚後、男性の浮気傾向が少し、上向きになる傾向がある。
15. 嫉妬は、どの段階でも女性より男性の方が強い。
16. 男女の嫉妬の度合いが似ているのは、片思い段階と性的恋人段階である。
17. 男性はプラトニック段階と配偶者段階で嫉妬が特に高い。
18. 20代～30代の若い年代では、片思い、プラトニック、性的恋人段階で、40代よりも嫉妬が激しい。

これらの結果を総合的に考察すると、

19. 男女では、交流内容の様相がかなり異なる。
20. 恋人段階と結婚段階ではさまざまな交流内容において様相が異なる。

男性の性戦略は、哺乳類の雄と同様、性的結合を目標として一夫多妻的なものである。他方、女性の性戦略は、哺乳類の雌と同様、性的結合、妊娠、出産、養育がセットになったものに加え得て、長い教育期間を可能とする経済力のある父親の確保という目標とする一夫一妻制である。

性的恋人段階から婚約までの段階において、男性の快樂度、幸福度が高いのに対して、女性の場合は、婚約、結婚という段階に至って快樂度、幸福度が最大になるのである。しかし、結婚段階において男性の快樂度、幸福度がさがり、そこで男女の快樂、幸福に乖離が生起することによって、その男女の意見不一致や不和から男性の結婚における快樂度、幸福度が下がるのであろうと考えられる。

## 進化心理学的解釈

これらの結果を合理的に説明するのに、「進化心理学」的解釈を適用してみよう。進化心理学では、動物の「個体の生存」と子孫を残していく「種の生存」という目的のために、動物の心理や行動が適応していると考えている。逆に言うと、心理や行動が個体の生存や種の生存に適応していた動物だけが、自然淘汰と性淘汰によって現在、生存していると考えているのである。

動物の配偶形態を概観すると、鳥類では一夫一妻制が多く雌と雄とが協力して子育てをしているケースが多いのに対して、人間の属する哺乳類の95%以上が、雄の役割は「交尾」のみ、雌は交尾し、妊娠し、養育するという人間社会の言葉でいう「母子家庭」で子育てをしているのである。

鳥類では卵から母親の体外で育てるために外敵からの捕食の危険が多く、母親だけの養育だけでは、子供の生存確率が急激に下がってしまうこと、また、鳥類では雌だけでなく雄にも養育を促すホルモンが分泌されているため、強い養育本能があることが指摘されている。このため鳥類では一夫一妻的に雄雌が協力して養育をするように進化したのである。

一方、哺乳類は、卵から孵った後も母親の胎内で生育し、小さくともかなり成体と同じ形の胎生で出産するために出産後、母親だけの養育で成長することが可能となった。そこで、雄は子孫を残す課題の交尾の部分だけを受け持ち、雌は交尾、妊娠、養育という課題を任される形態に進化したのである。

人間が多くの哺乳類とは違い、一夫一妻的な形態で子育てをするのは、おそらく人間が集団で社会生活をしている中で文化を発達させてきた過程で、自然淘汰によってではなく、文化的に一夫一妻制を採用したのであろうと考えられる。多くの哺乳類は子供を出産した直後の母乳による保育期間を過ぎると狩猟採集で食物をとることを子供たちに母親が教え、きわめて短期間で子供はおとなと同じように食料を確保することが可能となる。そうなる独立して生存が可能となる。しかし、人間社会では、狩猟採集経済から農業革命、産業革命、情報革命を経て文明を発達させ、人間の生活に必要なものは、自然よりも工業的に生産するようになり、それらの必需品を手に入れるために貨幣経済を発達させた。

貨幣で交換される製品やサービスは質の高いものではなくてはならず、人間はこうした人工的な物やサービスを生産できる仕事を得るためには、養育期間の後に長い教育期間を経て、就職して仕事ができるようにならないと、自らの口を養うことができない環境に人間の文明が変えてしまったのである。子供を一人前の大人に養育、教育するためには20年位の時間を必要とするようになったのである。こうした状況で、大部分の哺乳類のように母子家庭で養育することは可能でも、人間の大人に成人させる教育には母子家庭では多くの困難がともなう。そこで、考案され採用されたのが経済力のある父親との共同養育、教育である一夫一妻制ではないかと思われる。

人間の歴史で、この1万年で起きた人間社会の環境の変化が遺伝子レベルの適応に組み込まれていないという問題がある。哺乳類の雄には交尾だけに快楽が伴い、雌には交尾、妊娠、出産、養育のセットに快楽や幸福がともなうように遺伝子的にプログラムされているという問題である。理性や合理性からすると一夫一妻制がよいと分かっているが、男女では快楽システムが異なると考える方が男女の心理や行動の違いを理解しやすいであろう。

## 引用文献

- 金政祐司・大坊郁夫 2003 愛情の三角理論における3つの要素と親密な異性関係 感情心理学研究, 10, 11-24  
川名好裕・齊藤勇 2009 恋愛の進展段階 日本社会心理学会 第50回大会  
川名好裕・齊藤勇 2010 恋愛の進展段階(2) 日本社会心理学会 第51回大会  
松井豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64(5), 335-342  
松井豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会 第41回大会発表論文集, 92-93  
Sternberg, R. J. 1986 "A triangular theory of love," *Psychological Review*, Vol. 93, No. 2, 119-135

